

研修報告書 No.13

研修2年目の2月の4週間で、高知県の病院と2日間地域の診療所で地域医療を経験させていただきました。はじめは、初めての土地での研修で分からないことも多かったです。地域の人々がいろいろと教えてくださり、あっという間の4週間でした。大学病院では学ぶことのできないような地域医療の実態や先生方の豊富な医療知識や技術、熱心な指導により高齢者の腰痛やそのほかの痛みに対して施行していたトリガー注射、距離的に通院はできず往診でしか医療行為が受けられない状況の患者さん、一次予防の大切さ、病院で初のESDの介助、第1次産業の後遺症である振動病の国からの保障制度、CPA対応など多くのことを学ぶことができました。特に印象に残ったことを2つ紹介させていただきます。

1つ目は病院での往診のことです。その往診の中で、1件半年以内の左大腿骨骨折歴があり、今度は転倒により右大腿痛を訴えている方がいました。いろいろと話を聞いていると、転倒したのは約3日前で3日ほど動くこともできず、往診やサービスが来るまで自宅で待機していたという状況でした。独居という状況もあり、体動困難となった時に助けを呼べない状況を目の当たりにし、往診が導入されていなかったらどうなっていたのかと思ひ、往診が地域の人々にとってどんなに重要かを認識することができました。さらに、研修中にいろいろな地域へ車で往診に連れて行っていただいたのですが、車でしか行くことのできない場所ばかりで大変驚きました。西日本豪雨の被災地ということもあり、その時の被害で道が復旧されていないところも多く、またバスの本数も多くないという現状があり、また、車も運転することもできないような高齢の方が多という現状をはじめて自分の目で確認することができました。また、通院可能な人に対しては車でしか行けない地域では無料のシャトルバスが稼働しており、お店などがいないところは診察の合間に買い物にいったりして日常物資を確保しているという話も聞くことができました。このように、地域病院と地域住民の連携の仕方や通院できる人は定期的な通院によって日常生活にも良い影響を与えていることがわかり、地域医療を実感することができました。

2つ目は診療所で巻き爪に対し処置を行ったことです。診療所は週～日替わりで高知の病院から医師の派遣を受けている、web診療も駆使する常勤医不在の診療所でした。その時に、巻き爪に対し鬼塚法で小さな手術を見る機会がありました。普段、大学病院では、巻き爪に対しては皮膚科へコンサルトして診てもらっていたので、どのような対処をするのかはじめての経験でした。連れてきていただいた先生に鬼塚法の説明をしてもらい、手術を見ていると普段常勤医がいないということで医療器具に関しても限られたものの中から最良のものを選定し、サクサクと手術をこなし手術を終える先生をみてとても感銘を受けました。同時に、巻き爪も命に関わることはないけれども患者さんのQOLに関わることを改めて認識し、診療所は命に関わることの処置も重要であるが、どちらかというとも患者さんのQOL向上とともに診療所の診察も一次予防が重要であるということがわかり、身をもって経験する

ことができました。

上記のこと以外にも、世間では医薬分業やチーム医療と言われていてもなかなか人手の問題でできない現状や、危険な疾患を疑う患者さんの地域中核病院へ送る判断、連携の重要性、また、日常でも地域の人々の温かさに触れることができ、充実した地域医療研修を送ることができました。きっと地域医療研修として行かなければ一生経験することができなかつたようなことがいろいろあり貴重な体験でした。最後に、地域医療研修にあたってお世話になった病院の先生方、看護師さん、その他スタッフの方々、高知医療再生機構の方々、本当にありがとうございました。